

中国の記事から（畜産）

2006年5月20日号

目次

◎全国の乳業、2001～2005年に急成長

【経済日報 2006年05月12日】

◎米国が中国からの加工家きん製品輸入再開へ

【国際商報 2006年05月15日】

◎国家質検総局「肉製品の合格率は87%」

【国際商報 2006年05月16日】

◎全国の乳業、2001～2005年に急成長

【経済日報 2006年05月12日】

農業部牧畜業司の張喜武・副司長は、第10次5カ年計画(2001～2005年)期間中に全国の乳業は急成長したことを明らかにした。2005年の全国乳製品生産量は1310万4000トン(2000年より500%増)、都市部の1人あたりの乳製品消費量は24.8キログラム(同71.1%増)、農村部では2キログラム(同88.7%増)に達している。

一方、農業部は2000年から、「学生牛乳飲用計画」(小中学生らが毎日牛乳を飲む)を展開、これまでに全国52都市の小中学校8862校が同計画に参加、毎日牛乳を飲む小中学生は193万人に達した。農業部農墾局の呉恩熙・副局長によると、「学生牛乳飲用計画」が実施されたことで小中学生の栄養状態が改善されると共に、乳業の発展、農民所得増加などの効果もあがっている。

◎米国が中国からの加工家きん製品輸入再開へ

【国際商報 2006年05月15日】

米国農務省食品安全検査局(FSIS)は2006年5月24日から、米国向け加工家きん製品輸出が可能な国の1つとして中国を指定する。香港貿易発展局(HKTDC)が明らかにした。家きんと畜前後の検査、国の家きん製品加工設備・施設などに対する検査、製品などに対する監督・管理体制

制など、いずれも米国の基準をクリアするよう求められている。FSISは、中国の家禽加工検査制度が米国基準をクリアしているとして、中国からの加工家きん製品輸入を認可した。

しかし、中国から輸入される家きん製品は米国が認可した第三国で、と畜しなければならないという条件がある。と畜後の加工は本土でも可能である。

◎国家質検総局「肉製品の合格率は87%」

【国際商報 2006年05月16日】

国家質量監督検疫総局(製品品質を管理。国家質検総局)は、北京市、天津市、山東省、陝西省、江蘇省、江西省、湖北省、湖南省、上海市などの17省・直轄市の63メーカーが生産する肉製品80種を対象に行った品質サンプリング検査の結果を発表、合格率は87.5%となったことを明らかにした。江蘇南京雨潤食品有限公司(製品ブランド「雨潤」)、内モンゴル自治区草原興発股フン有限公司フフホト市熟食廠(「草原興発」)、北京華夏志城食品有限公司(「華夏老趙」)の製品品質が高い評価を得た。

一方、江蘇鎮江市源春肉製品有限公司(「家樂福」)、河北石家庄衆人食品有限公司(「虹一」)、重慶莉萊食品有限公司(「牛浪漢」)の製品は不合格となった。不合格製品では複合リン酸塩・微生物・亜硝酸塩の含有量などが基準をオーバーする問題が目立っている。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により 翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て 独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。
--